

令和元年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和のとれた高い知識と豊かな心を持ち、たくましい人間を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒
- ② 心豊かな生徒
- ③ たくましい生徒
- ④ 視野の広い生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「主体的に学力を高め、心を耕し、心身を鍛える生徒の育成」

知識基盤社会の時代といわれる 21 世紀を生きる人間にとって、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」を育むことは、ますます重要である。そのため、歴史と伝統及び良き校風を大切に繋げ、発展させ、人間尊重の教育を推進し、未来を切り拓く意欲や豊かな創造性の育成に努め、創意ある教育課程を編成して、生徒自らが主体的に学力を高め、奉仕と思いやりの心を育て、心身を鍛えることで、教育目標を達成させるようにする。

また、生徒が生き生きと主体的に取り組む教育活動の実践のため、学業指導の充実、学校園及び学区内の小中学校との連携や協同の充実、学校の公開や情報の発信、家庭・地域・企業との連携や協同の充実などを意図的・計画的な学校経営を行うことで、保護者・地域住民から信頼される学校づくりをする。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1） 学業指導の充実を図ることで、確かな学力、豊かな心、健康・体力を育む。
- （2） 基本的な学習習慣や態度を身に付けさせ、分かる授業を通して確かな学力を育成する。
- （3） 自己肯定感・自己有用感を育み、生命尊重と他人を思いやる心を持った生徒を育成する。
- （4） 基本的な生活習慣の確立・集団規律の遵守を通して、規範意識の向上を図る。
- （5） 教職員自らが課題意識を持ちながら、教育の専門家としての自負を持って研鑽に励む。
- （6） 学校の公開や情報の発信（HP、各種たより等）を積極的に行うことで、家庭、地域、関係機関等との連携を強化する。
- （7） ○小中一貫教育の充実、地域学校園の連携や協同を積極的に行うことで、児童生徒が発達段階に応じた一貫性のある教育を継続的に実践する。

[若松原地域（WGS）学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの 9 年間の学校教育を「関わる教職員の思いと責任を共有し連携して、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導として」継続的に実践する。

4 教育課程編成の方針

（1）調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習等の連携に努め、本校教育の中核である「主体的に学力を高め、心を耕し、心身を鍛える生徒の育成」を、教育活動全般を通して積極的に展開し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成に努める。

（2）確かな学力の定着

全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査、宇都宮市学習内容定着度調査や学校評価等の結果を基に、生徒の実態や課題を把握・分析し、研究授業や授業研究会、教科部会等を通じて、教師の資質向上や情報の共有化を図り、生徒にとって「わかる、学ぶ喜びを味わえる授業」を展開し、確かな学力の定着に努める。

（3）基礎的・基本的な学習内容の定着と活用

基礎・基本的な知識・技能を確実に習得し、それらを活用して思考力・判断力・表現力等を育むことができるよう、つまづきやすい内容の洗い出しや課題を抱える生徒への決め細やかな指導に努める。また、各教科・領域間の連携・系統性を考慮し、それぞれの特性に応じた知識・技能を活用する学習活動の充実に努める。

（4）心の育成

各種ボランティア活動への積極的な参加と、教育活動全体を通して行う道徳教育の充実に努め、生徒の道徳性の育成と体育・

健康に関する指導の充実により、自他の生命の尊さを知り、心身ともに健康で活力に満ち、思いやりあふれる生徒の育成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】～自己実現（社会的自立）を図るための指導・支援の充実～

- ・「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の充実
- ・主体的に判断し、行動できる生徒の育成
- ・心身の健康を把握し、自他への思いやりの心の育成

○学力向上のため、小中一貫教育の教科部会や分科会の充実

【学 習 指 導】～学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり～

- ・学び合い活動を通して、コミュニケーション力の向上を推進する。

○分かる授業を展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。

【児 童 生 徒 指 導】～自己指導能力の育成～

- ・自ら判断し、責任を持って実行できる生徒を育成するため、自己指導能力の育成・向上を図る。

○自ら課題に立ち向かい、思いやりと協同を実行し、自他共に成長できる学習集団の雰囲気を作り、学力向上の基礎・基盤となるよう推進する。

【健康（体力・保健・安全）】～心身共に健康的な生活を目指して～

- ・健康・運動・食に関する指導を通して、体力の維持や増進・食習慣や食のマナーの体得など、健康的な生活習慣づくりを推進する。
- ・自他の生命や心の健康を大切にし、知識・理解を深めて安全で豊かな生活を送れるようにする。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 1 の 生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）88.3%	・学習指導主任や教科・領域主任を中心に、本校の実態に合わせて「教えて考えさせる授業」を展開する。 ・探究型の授業や言語活動の充実を図り、生徒一人一人が主体的に取り組むような授業づくりを進める。 ・授業中における集団づくりを実践する。 ・学力の向上に向け、各教科部会の充実を図り、一人一人の能力や適性、特性、意欲の状態等の現状を把握し、個に応じた支援策を講じていく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.3%で、数値目標を上回っている。昨年度の 84.5%から 3.8 ポイント向上した。 【次年度の方針】 ・継続して探究型の授業を積極的に取り入れ、生徒が主体的に考える活動を進める。 ・家庭学習に進んで取り組めるよう、学習方法を指導するとともに、家庭への協力を働きかける。 ・課題解決に困っている生徒に対しては具体的にヒントを与えるなどして、課題に対し粘り強く取り組ませ、達成感が得られるよう指導する。また、個々のつまづきや課題を把握し、個に応じた支援を行う。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 2 A 11 の生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）86.8%	・主に道徳の授業を通して、思いやりの心を育てるとともに、教育課程全体の中に実践の場を設定する。 ・福祉教育の充実を図り、障害をもった方や高齢者などへの思いやりの心を育てる。	A 【達成状況】 ・両項目とも生徒の肯定的回答は 86.8%で、数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・地域学校園の重点目標でもあり、小中連携を積極的に推進する。 ・福祉教育の充実を図るために、命の授業・高齢者体験などの授業を、来年度も継続して実施していく。 ・教職員や保護者の評価が数値指標を若干下回っているため、福祉教育の授業や道徳の授業を土曜授業や授業参観で行ったり、HP から発信したりして、実践の様子や成果を紹介する。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 評価項目 A 3 の生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）88.1%	○家庭や地域に生徒の様子を理解していただくこととルールや法律を遵守する判断力と行動力が身につくように協力を要請する。 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科となった道徳の時間の指導の改善を図る。 ・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.1%で、数値目標を上回り、昨年度（78.2%）よりも約 10 ポイント上がった。また、教職員、保護者や地域の方々の肯定的評価も上がっている。 【次年度の方針】 ・ほとんどの生徒がきまりを守りという意識が高い。一歩進んでマナー向上のため強化週間などを設けて意欲の向上を図る。 ・自分の言動が、周囲にどのような影響を与えるのかを道徳、学級活動、生徒会活動など様々な場面で考えさせる。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 評価項目 A 4 の生徒の肯定的回答が 90%以上→（結果）92.2%	・授業開始終了時の「語先後礼」のあいさつの拡大を図る。 ○地域学校園での生徒会のあいさつ運動を通して、リーダーの育成を図る。 ・PTA 及び地域協議会と連携した「あいさつ運動」や登下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.2%で、目標値を上回っている。 【次年度の方針】 ・PTA、地域協議会、WGS あいさつ運動等を今後も継続させに、地域全体で挨拶が飛び交う雰囲気づくりを中学校から発信する。その具体的方策として、地域の小学校や、昇降口であいさつ運動を生徒とともに、教職員が率先垂範して行う。 ・授業の前後の「語先後礼」を今後も徹底し、できない場合は適宜教師が指摘し修正させることで意識付けを図る。さらに、「立腰の姿勢」を意識し、姿勢とあいさつを強調させていく。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 5 A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）85.5%	・新学期の始めに目標を立てさせ、学期末に評価を行う。 ・学習や部活動、学校行事など目標をもって取り組ませ、生徒同士がお互いに励まし合いながら、より高い目標に向かって努力する態度を育てる。	B 【達成状況】 ・肯定的回答は生徒が 85.5%で数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・ペアワークやグループなどの学び合いの活動を積極的に取り入れ、生徒が主体的、協働的に学ぶような探究型の授業を実践していく。 ・学校行事や部活動などで理想や自分の目標をもたせ、意欲をもって主体的に物事に挑戦する気持ちを育てる。そのためにも粘り強さの成功事例を多く与えたり、適切な激励や賞賛を与えたりしていく。

A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 評価項目 A 6 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）93.0%	・保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。 ・うがい、手洗いなど進んで行わせ、風邪等の予防に努めさせる。 ○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。 ・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切であることを理解させるとともに、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。 ・避難訓練や交通安全指導等で危険回避能力や判断力を養う。 ・毎月行う安全点検を教職員と生徒が一緒に行うことで、生徒の安全管理への意識づけを図る。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.0%と数値目標の 80%を上回っている。 【次年度の方針】 ・保健体育委員を中心にうがい手洗い、歯磨きの励行、教室の換気、適度な運動を呼びかける。 ・給食指導やお弁当の日の献立作成等を通して健康な食生活につなげていく。 ・交通安全指導を通して危険回避や判断力を養う。 ・安全点検を定期的に行い、安全管理を徹底する。 ・健康診断結果の早期治療を促す。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 評価項目 A 5 A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）85.5%	○地域学校園内で発達段階に応じたキャリア教育を系統立てて行う。 ・社会人から講和を聞くなどの機会を設け、働く意味を各自で考えさせる。 ・宮っこチャレンジでの体験を生かして、将来に向けた自分像を描き、目標をもって学校生活が送れるようにさせる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 85.5%で、数値目標を上回っている 【次年度の方針】 ・地域学校園で 9 年間のキャリア教育の見直しを図り、さらに充実させる。 ・宮っこチャレンジやボランティア活動などの体験を通して、「視野を広く」を合い言葉に地域や社会へ貢献する態度を育てる。
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 評価項目 A 8 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）83.7%	○小中で一貫して、英語のコミュニケーションスキルを習得させる。 ・英語の授業に生徒同士や A L T と英語を使って交流する学習を多く取り入れる。 ・修学旅行や社会体験学習等で外国人に進んでコミュニケーションをとらせるために、場に応じた会話例を指導する。	【達成状況】 ・肯定的回答は生徒 83.7%で、目標値を上回っている。 【次年度の方針】 ・英語の授業では、生徒同士や A L T と一緒に言語活動を行い、英語を使う場面を多く設ける。外国の人にすすんで話しかけることを目標に、具体的な会話例を示して対話練習を行う。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 評価項目 A 9 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）77.2%	・社会科や総合的な学習の時間で地域や宇都宮の学習を行い、他市と比較しながら、宇都宮の良さを発見させる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答割合は 77.2%で、目標値を下回った。また、教職員は 45.8%、保護者は 50.4%にとどまった。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間において、宇都宮を学ぶことをテーマにした内容が実施されていくことから、有意義な学びに結び付け、肯定回答の目標達成を目指したい。各教科でもや集会でも宇都宮に関する話題を提供していく。

	A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 評価項目 A10A25 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）55.3%	・授業においてインターネット等を活用する。 ・図書館利用のガイダンスを全学年で年1回以上行い、生徒が学習に活用しやすいようにする。	A 【達成状況】 ・肯定割合は教職員 55.3%で目標値を下回った。保護者は 49.9%、生徒は 58.1%にとどまった。 【次年度の方針】 ・教職員が職員研修において I C T機器やタブレットの使い方を習得したことを各教科で生かし、活用を実践していくようにする。 ・図書館司書と連携し、各教科で図書室での学習活動を実践したり、必要な図書を選定し授業で活用したりする場を設けていく。
	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A2A11 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）86.8%	・敬老の日に行われる地域の敬老会に、生徒が積極的に参加できるよう PR を行い、高齢者に感謝やいたわりの態度を育てる。 ・道徳の授業において、高齢者への思いやりを育てる題材を取り入れる。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的割合は 86.8%と目標値を上回った。また、教職員は 83.3%、保護者は 82.7%と高い評価であった。 【次年度の方針】 ・道徳の授業だけでなく、地域へのボランティア活動等を通して、高齢者と接する機会を今後もつくり、継続して感謝といたわりの心を育む。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A12 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）29.8%	・理科や社会、家庭科等の授業において、エネルギーや資源の問題を取り上げ、生徒たちに議論させる。 ・校内の掲示コーナーに環境問題を啓発するようなポスターやチラシを貼るなど生徒の関心が高まる環境をつくる。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答割合は 29.8%で、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・教職員が「持続可能な社会」について十分に学習する必要がある。「地球環境や自然環境」について興味関心を持てるよう学活や総合的な学習、生徒会活動等に取り入れる必要がある。
	B1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。 【数値指標】 評価項目 B1 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）78.7%	・学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、「図書だより」や掲示物を活用して良書を積極的に紹介する。また、年間を通して計画的に朝の読書を実践する。 ・読書推進活動を強化するとともに、家庭でも読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定割合は 78.7%で、目標値 80%をやや下回っている。 【次年度の方針】 ・公共図書館や地域学校園との連携を図り、各教科で図書室の利用を増やす機会を設けるなどしながら、生徒の図書室利用の習慣化へつなげたい。 ・保護者の協力を得て家庭における読書時間を確保してもらったり、地域協議会の図書館ボランティアの支援を受けたりして、「読書の楽しさ」に触れさせ、「読書の質の向上」を目指したい。
目指す学校	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目 A13 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）93.8%	・年2回の特別支援委員会で、特別な支援を必要とする生徒の実態の共通理解を図り、必要な手立てを考える。 ・2名の学校生活支援員と学年や担任が連携を図り、適切な支援が提供できるよう協力体制を構築する。 ・毎週行う教育相談部会において、情報交換を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。	B 【達成状況】 ・肯定割合は教職員 93.8%で目標値を上回っている。 【次年度の方針】 ・校務分掌に特別支援教育部を新設し、支援が必要な生徒に対して、全校体制で支援策を検討し、推進していく。 ・通常の学級での支援及び授業の研究を全職員で推進し、分かりやすい授業方法を更に工夫していく。

の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 評価項目 A14 の生徒の肯定的回答が 90%以上→（結果）95.3%	・毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 ・学校のいじめ対策について、保護者会やホームページ、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的評価は 95.3%で数値目標を上回っているが、保護者の肯定的評価は 73.3%にとどまった。 【次年度の方針】 ・いじめのアンケートを年 5 回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ・学校のいじめ対策について、保護者会や学年通信、ホームページ等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 評価項目 A15 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）91.7%	・2 日休んだら家庭訪問の原則を守り、いきしぶり等の早期対応を図る。 ・教師が一人一人の生徒の個性を重んじ、個に応じた対応を行う。 ・生徒同士がお互いを認め、励まし合える学級の雰囲気作りに努める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的評価は 91.7%で数値指標を上回っている。教職員では 97.9%が肯定的回答をしている。 【次年度の方針】 ・家庭訪問の原則の徹底、こまめな教育相談の実施を重点とし、新たな不登校を生まないような支援を推進する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目 A13A16 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）93.8%	・国際理解や異文化理解の教育の推進を図り、違った習慣や考えをもった生徒へ理解を示す態度を育てる。 ・日本とは違った思考にも寛容に対応し、生徒の実態に応じた配慮を行う。 ○地域学校園内や他区から転入学してくる外国人生徒の情報を迅速に集め、登校初日から対応できるような校内体制を作れるようにする。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 93.8%と高い。 今年度は、マレーシアから研修員の視察があったため、学校全体で国際理解・異文化理解の良い雰囲気作りができた。 【次年度の方針】 ・外国語や社会科だけではなく、全教科の授業において国際理解・異文化理解教育につなげる。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 評価項目 A17 の生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）84.0%	・居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。 ・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認める集団づくりを実践していく中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.0%であったが、教職員・地域住民は 100%と保護者は 88.7%と肯定的回答は高かった。 【次年度の方針】 ・「魅力ある若中アンケート」を活用することで、生徒が目指す「居がいのある学校」を引き出し、改善点等を生徒と共に考えていく。 ・生徒の自己肯定感を高めるために、生徒一人一人に声をかけ、賞賛できる場の設定を意図的に行うようにする。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 評価項目 A18 の教職員の肯定的回答が 85%以上→（結果）100%	○個に応じたきめ細かな指導を行い、数学科、英語科では習熟度別学習や T T など指導形態を工夫し、学力の向上を目指す。 ○授業の始まりに授業のねらいや身に付けたい力を示したり、授業の最後には、振り返りを行ったりすることにより、生徒の学習活動をより活発にするための指導法の改善を図る。 ・生徒一人ひとりが意欲的に学習に取り組む、学力の向上が実感できるよう、教職員が互いに研鑽する機会を充実させ、授業改善をさらに進めていく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的評価は 100%で数値目標を上回っている。 ・また、保護者の肯定的評価が昨年度の 67.6%から 75.9%と 8.3 ポイント上がっており、学校での取組が理解されてきた。 【次年度の方針】 ・全教員参加の授業力向上プロジェクトを、次年度も学力向上指導員の指導を得ながら、授業力向上研修を継続して実施し、教職員全体の授業力向上を進めていく。 ・授業の振り返りや評価を生かした指導を実践し、知識・技能の確実な定着を図る。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 19 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）97.9%	・SCやMS、かがやきルーム指導員に週1回開催する教育相談部会に参加してもらい連携を図る。 ・PTA事務員の座席を事務室に確保し、時間的にも空間的にも連携が図れるようにする。 ・地域コーディネーターと地域連携教員の連携を密にし、信頼関係を構築しながら業務を遂行する。 ・かがやきルームを活用し、生徒への学習支援を促進する。	【達成状況】 ・教職員の肯定割合は昨年度の73.9%から大きく伸び、目標値を大きく上回っている。 【次年度の方針】 ・SCやMS、かがやきルーム指導員の専門的な知識を、実践例を交えた研修会を実施し生徒支援に役立てる。 ・地域コーディネーターとの連携を更に密にし、地域人材を含めたチーム学校づくりを推進する。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 20 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）79.2%	・会議のペーパーレス、保護者通知のメール配信など時間短縮を意識した業務の改善を行う。 ・校務分掌の引継ぎのデジタル化を図り、過去のデータがすぐに活用できるように整理をする。 ・PTA事務員の活用によりPTA役員との連絡調整や会計事務などPTA事務の業務を縮減させる。 ・2名の地域コーディネーターと連携を密にし、役員の連絡や運営についての仕事を分別し効率化を図る。 ・PTAと地域協議会に下校指導の協力を依頼し、会議が早く始められるようにする。	【達成状況】 ・肯定的回答割合は79.2%で、数値目標にほぼ近づいた。また、昨年度50.0%と比較すると、大幅に肯定的回答が増加した。 【次年度の方針】 ・ワークライフバランスの視点に立って、生徒や保護者も含めたゆとりある学校づくりを目指し、バランスの良い年間指導計画を立てる。 ・PDCAサイクルに基づき行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組む。 ・各分掌の計画の段階から業務改善の視点を盛り込む。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 評価項目 A 21 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）91.7%	・生徒会を中心に合同のあいさつ運動を行ったり、ボランティア活動で交流したりすることにより、生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。 ・各小・中学校の地域協議会との連携を図り、小・中学生がともに取り組むことのできる活動を探し、生徒に積極的に参加するよう呼びかけていく。 ・乗り入れ授業を通して、小学生の中学校に対するギャップの軽減を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が91.7%で数値目標を上回っている。また、生徒が昨年度より15ポイント上昇して76.4%となり、効果が感じられる。 【次年度の方針】 ・生徒会を中心に行っている合同あいさつ運動やボランティア活動での交流を、校内の掲示板等を利用して生徒へ積極的に情報発信していく。 ・生徒会朝会や校内放送等を利用して、活動の実績報告やボランティアの募集等を行い生徒に積極的に情報の発信を行う。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 評価項目 A 22 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）93.8%	・学校に隣接するコミセンを放課後の学習支援の会場とし、地域の講師が生徒に勉強を教える体制を作る。 ・地域協議会が中心となって地域の人材を募集し、図書館やバラ園などの環境整備ボランティアに参加する体制を作る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が93.8%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・五若コミセンでの地域未来塾（学習支援）をさらに充実させ、より地域主体で運営できるようにする。地域協議会に学習支援部を作り、地域の学習支援員に部会長をお願いする。

	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目A23の教職員と地域住民の肯定的回答がともに80%以上→（結果）93.8% 91.7%	・若松原中学校地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。 ・地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答が教職員は93.8%、地域住民は91.7%で数値目標の80%をどちらも上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も各種便りを積極的に活用するとともに、ホームページについては更新間隔をできるだけ短くし、保護者、地域住民への最新情報の発信に努める。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 評価項目A24の保護者と地域住民の肯定的回答がともに80%以上→（結果）86.0% 84.6%	・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・毎月の安全点検を生徒と一緒にし、安全な学習環境をつくるとともに、生活安全に対する関心を高める。 ・PTAと地域協議会に下校指導の協力を依頼し、地域ぐるみで交通安全指導を行う。 ・地域協議会が年2回行っている夜間巡回指導を継続して行い、危険箇所の点検や生徒の非行防止に努める。	B	【達成状況】 ・肯定割合がそれぞれ保護者86.0%、地域住民84.6%と数値目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・修繕が必要な箇所について、部室等を含め生徒と共に安全点検を行った。次年度も継続していきたい。 ・学校周辺の道路横断の仕方について共通理解を図り、安全な登下校ができるよう交通指導を行った。地域の方々との連携をし、引き続き交通指導、地域巡回を行い安全指導に努める。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 評価項目A10A25の教職員の肯定的回答が80%以上→（結果）55.3%	・情報担当者の責任のもと、ICT機器の一括管理を行い、各教科の学習に必要なICT機器の整備を行う。 ・図書館教育担当者が授業に使える図書の希望をとり、図書の充実を図る。	A	【達成状況】 ・目標値80%に対し、55.3%と大きく下回った。 【次年度の方針】 ・ICT機器の貸し出しは行っているが、何を使用できるかを知らない職員もいると考えられる。使用できる物品を周知する。 ・タブレット使用方法を周知する。
	B2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。 【数値指標】 評価項目B2の生徒の肯定的回答90%以上→（結果）91.8%	・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。 ○地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的評価は、91.8%であり、数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・地域学校園としてのお弁当の日を通して食への意識を高めるとともに、各家庭への理解と協力を依頼する。
	本校の特色・課題等 B3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。 【数値指標】 評価項目B3の生徒の肯定的回答が85%以上→（結果）80.7%	・時間を守ることの大切さを教師自ら率先垂範し、生徒の意識を高めていく。 ・各クラスのリーダーを育成することを通じて、生徒自ら主体的に「5分前行動」の呼びかけを行い、共通理解を図りながら、時間を守るムードの醸成を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定評価は80.7%であり、数値目標をやや下回っているが、教職員は昨年度より約12ポイント上がって、87%となり、改善が感じられた。 【次年度の方針】 ・学級委員長が各クラスで授業開始2分前着席の声かけをするとともに、廊下に出て学年全体を見ながら早めに教室に戻ることを促す。 ・次時の授業担当教員が早めに教室に行き、教室の様子を見て適切な声掛けをする。 ・今年度はじめた「立腰」を次年度も習慣化していく。

	B 4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。 【数値指標】 評価項目 B 4 の生徒の肯定的回答が 90%以上→（結果）97.2%	・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心がける。 ・学校行事等において生徒の自主的な活動を促し、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。 ・「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒一人一人が主体的に活動できるような場を設定する。	B	【達成状況】 ・職員の肯定的評価は 97.8%で目標数値を上回っている。また、生徒 97.2%、保護者 96.8%、地域住民 100%と高い評価を得た。 【次年度の方針】 ・生徒の主体的な考えを積極的に取り入れ、生徒と共に考え協働する指導を心掛ける。
	B 5 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 評価項目 B 5 の教職員の肯定的回答が 85%以上→（結果）91.3%	・生徒会で企画運営を行う地域のクリーン活動を行い、ボランティア精神を育てる。 ・地域の行事のポスターを貼って紹介するなど P R 活動によって参加を促す。 ・ボランティア委員会でボランティアカードを作成し、意欲を高める。	B	【達成状況】 ・肯定割合は教職員 91.3%で、目標値 85%を上回っている。 【次年度の方針】 ・リトルクリーンや募金、地域ボランティアなど、すでに生徒が行っているボランティアが地域に貢献しているという実感を抱かせるような指導まで行うことが重要である。生徒会朝会の機会を使って、ボランティアの成果を周知させたい。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

☆アンケートから良好と考えられること

・「教職員・保護者・地域住民・生徒の全てで肯定的回答が 80%を超えている項目」は以下のように 16 項目であった。
(A1) (A2) (A3) (A4) (A6) (A8) (A11) (A13) (A17) (A19) (A22) (A23) (A24) (B2) (B3) (B4)
昨年度は 8 項目だったので、本年度は全体的に好評価であった。

・特に、教職員の肯定的回答割合が昨年度と比較して、全ての項目について上昇した。特に (A1) 15.3% (A3) 11.3% (A19) 24.0% (A20) 29.2% (B3) 11.4%と 5 項目について 10%以上の割合の上昇が見られた。これは、今までの継続的な取組がよい結果に現れたと考える。今後も、具体的な目標を設定しながら取組の強化を図っていきたい。

★アンケートから課題と考えられること

「評価者の中でいずれかの肯定的回答が 70%未満の項目」は、以下の通り 5 項目あった。

- (A9) 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。(教職員) (保護者)
- (A10) 児童生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。(教職員) (保護者) (生徒)
- (A12) 児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。(教職員) (生徒)
- (A25) 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。(教職員) (保護者) (生徒)
- (B1) 生徒は、本(読書)が好きになった。(保護者) (生徒)

・上記 5 項目についての改善策は、それぞれの項目に記入したことをもとに取り組んでいきたい。

・(A9)については、令和 3 年度から「宇都宮学」が総合的な学習の時間において開始されるので、教育課程の中で計画的に生徒に宇都宮の良さを学習させる。

・(A10)については、今年度、タブレット型のパソコンがパソコン室に整備され、それらを各教室に持ち込んだ授業ができるようになり、各教科でタブレットを活用した授業の研究が行われている。また、体育館での集会や放送室からの校内放送において、P P を利用したプレゼンテーションを生徒が行うことは日常的に行われている。授業では各教室にある大型テレビにデジタル教科書を写したり、写真や動画、インターネットの情報を提示したりしている。このように実践事例はあるが、今回、この項目の肯定的回答割合が低かったのは、I C T 機器の活用という言葉にやや高いハードルを感じたためと推測される。

・(A12)については、生徒の肯定的回答は 63%で、教職員は 29.8%と大きな差が見られた。生徒にとっては、社会や理科、国語等で「持続可能な社会」テーマにした授業が行われているので関心が高いと思われる。その一方、教職員にとっては、このテーマの時数の扱いが少ないことや、生徒がどのくらい関心をもっているか判断しづらいことから、このような回答差

が現れたと思われる。今後、この項目については、学校教育の重点目標に位置づけたり、各教科と領域の年間指導計画に位置づけて学習させたりする必要がある。

・(B1)については、生徒の肯定的回答は75%、教職員は80.0%であり、保護者は56.0%と差が見られ、保護者との認識の差がある。本校では、毎朝、10分間、朝の読書の時間を日課に位置づけて読書の時間を確保し、生徒が本を読む週間を身につけ、読解力をつけることに力を入れている。今後は、家庭に配付している図書日よりなどで、朝の読書の様子、生徒の読書量や図書館の本の貸し出し状況を掲載するなどして、保護者に学校での取り組みを知らせたい。

◆昨年度「評価者の中でいずれかの肯定的回答が70%未満の項目」の3項目についての検証。

・昨年度(A10)→本年度(A21) 学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。

(保護者 H30 61.4% → R1 76.4%)

昨年度より保護者の肯定回答割合は増加した。今後もホームページ等で小中一貫の取り組みの情報を発信していく。

・昨年度(A11)→本年度(A20) 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

(教職員 H30 50.0% → R1 79.2%)

昨年度より約30%肯定回答が増加した。各校務分掌において、業務改善の視点を取り入れながら仕事を進めていることの効果が現れたと考える。今後もチームとしての学校の取り組みを進め、業務改善に取り組んでいく。

・昨年度(A19)→本年度(B5) 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。

(保護者 H30 69.4% → R1 74.0%)

昨年度より保護者はもとより、教職員、生徒、地域住民ともに肯定回答の割合が増加している。今後とも自治会や地域協議会と連携をとりながら、「視野を広く」を合い言葉に地域で活躍する生徒を育てていく。

7 学校関係者評価

・(A14)(A15)(B4)をはじめとして19項目について、80%以上の高いところで、教職員と生徒の評価が一致しているところが評価できる。

・(B5)の評価が、全ての調査対象で昨年度より評価が高くなり、生徒の地域でのボランティア活動が目立つようになった。

・(A9)については、これから始まる「宇都宮学」で宇都宮の良さを学習することに期待したい。

・(A9)(A10)(A12)の取り組みについては、実際の学習で行われるので、取り組み状況をもっとPRしたほうが良い。

・(A17)(A18)については、教職員は100%であるが、生徒は80%にとどまっているので、先生達の自己満足ではないかという見方もできるが、まずは教職員のモチベーションや意識の高揚が重要であり、「ぬか喜び」ではいけないことを肝に銘じ、生徒個々への指導をこれからも充実させていきたい。

・(A22)については、1年時は働く人に学ぶ、2年時は社会体験学習、3年時は進路学習など地域の人材を生かした教育を行っている。また、放課後学習支援「地域未来塾」を今年度から取り組み、地域の教育力を生かした学校作りに展開している。

(その他)

・小学校ではプログラミング教育を、算数の授業でパソコンを使って円を描くなどの場面で取り組んでいる。やもすると商業的な言葉として思われがちだが、論理的思考を行うことやロボットを動かす原理を学んでいる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・学校評価について、生徒・保護者・地域住民の多くの方々から回答をいただいた。今年度は、昨年度のアナケート内容から大きく変更があった。そのため、すべての項目について前年度の学校評価の結果と比較した目標数値を設定することができなかった。昨年度から継続している項目については、目標値を少しずつ高めに設定し、その達成に向け改善を進めてきた。その結果、全30項目中、22項目で目標を達成することができた。しかしその反面、目標数値をクリアできなかった項目があった。また、中には自由記述で厳しいご意見もあり、それらについては期待の表れとして捉え、教職員一同、課題の改善に向けて努力していきたい。

・教職員評価が、今年度は昨年度に比べ全ての項目について評価が上がった。これは本校の教職員のモチベーションが高いことの現れであり、引き続きチームとしての学校作りや働きやすい環境作りに取り組むたい。

・評価の低かった項目や目標値に達しなかった項目については、来年度の重点課題としてとらえ、課題解決に向けて組織の改善をしたり、家庭や地域と連携を図ったりするなど具体策をもとに改善していきたい。

○今年度から２年間、県の学力向上事業として学力向上指導員のもと、小中一貫で学力向上に向けて取り組みを行っている。今年度は、各教科の９年間のカリキュラムマネジメントを作成し、実践してきた。来年度はその見直しを行い、小中合同の授業研究に取り組みたいと考えている。

・各項目の来年度の取り組みの具体策については、学校評価書を参考にしていきたい。